防災ひろば　話題あれこれ

プレーパーク検討会の委員から

プレーパークの検討会を行っているおとな会議には、地元の２つの会の代表者の他に、豊島区全域から公募で参加された委員の方々もいらっしゃいます。皆さん、子供の遊び場について、希望を持って検討会に参加されました。その公募委員の皆さんに、プレーパークへの思いを書いていただきました。

防災ひろばでのプレーパーク

長男が幼稚園に通っているころから、池二小のうらの草っぱらの広場の横を通るたびにこんなところで子供達を遊ばせてあげられたら……と思っていました。この度プレーパークの公募委員になり、この広場を大切にしてきた地域の方々の存在と、子供活動の為に腐葉土つくりなどをやっていることを知りとてもうれしくなりました。私のような現役の母親だけじゃなく、地域の大人がこのような(プレーパーク的な)方法で子育てに参加してくださるというのは大切なことだし、この地域の大きな活力だと思います。

我が家の息子達も、子供の遊び場についてこんなに一生懸命に考えてくれる大人がいることを感じながら、プレーパークをとおして地域の人と関わって成長してほしいです。

（池袋・栗林知絵子）

プレーパークができたらいいな

小学校５年生を筆頭に、３人の子どもの母親です。ようやく豊島区に根っこをおろして、というところで周辺を見渡すと、けっこう小さい公園はたくさんあるものの、小学生がめいっぱい遊べるような大きな公園はさすがにありません。羽根木のプレーパークは何度も通っていたので、あんな公園が近くにあったらいいな、という思いはいつもありました。周辺の区でプレーパークを作ろうという市民レベルの動きがあることを聞くにつけ、私たちも何かできないか、と思い始めていました。

子育て関連のＮＰＯをやっていて、毎年夏になると、山の中の施設を借りて合宿をしています。自然の中では放っておいても子どもたちは群れて遊びだします。異年齢集団が自然に発生します。すごいなぁ、といつも感動してしまうくらいです。

そうした自然の持つ魅力にはとうていかなわないとしても、土と水と火という変化する素材を相手にした、それに近い遊びを提供できるのがプレーパークの良さだと思います。東京の街の中で子育てしていても、せめてそうした遊びの場所を子どもたちに与えてあげられたら、と願っていました。

そこへ今回、区の呼びかけがあり、さっそくワークショップに飛び込みました。近隣の方の思いやその広場に集う人々の今までの積み重ね、区側の都合、個々人の思い…初めて直面して、その大変さにはしんどくなることも多いです。でも、今、目の前にいる子どもたちにぜひこうした遊び場を！という思いに立ち戻る時、やはり何とか形にして残していきたいと強く思います。１つめができたら、ぜひ２つめも…そうやって街の中で子どもたちがたくましく育っていってくれるように。今まで活動されてきた方たちや地域の方たちと知恵と力を集めながら実現していきたいなと願っています。

（千早・伊藤恵美子）

プレーパークワークショップに参加して

私は今回、子供が昔ながらの健全な遊びが出来る場所を豊島区にも多く作られるよう希望し、ワークショップに参加しました。今の子供たちは遊び場を取り上げられて、大人の都合でテレビやゲーム遊びにおさまっているように思えてしかたありません。家の近くにもプレーパークが出来、子供が自然の中で遊べるといいのですが。

そんな思いとは裏腹にワークショップの難しさというのも今回痛感しました。役所のやり方には初めから閉口しました。候補地は区の持ち物を使わせてもらうので、区の都合もあるかと思うのですが、それならそれで分っている事、制限されていることは全部話しておいてほしいのです。皆、何も知らされずに、結論は決まっているような事柄に何時間も議論したり、区民の思いをまったくくみ上げる意思がないのではと思えてきたり。

日本は戦後、形だけの民主主義を真似てきましたが、市民がたたかって民主主義を勝ちとったのではなくアメリカの真似をしているだけなので、本当の民主主義ではないと聞いたことがありましたが、今回ワークショップに参加し実感しました。そして私達もまた、お互いの意見も言いながら折り合いをつけていくという作業に不慣れであるように思います。今後も自分達も学びながら、あきらめることなく良いプレーパークが出来るよう、区の方にも働きかけていければと思います。

（長崎・秋山雄子）

※プレーパーク：冒険遊び場とも呼ばれる自分の責任で遊ぶ公園。
※ワークショップ：参加型の会議の進め方の１つ。

ひろばとカギの１年半

昨年の７月１日から防災ひろばの暫定利用が始まり、豊島区と住民の協働作業としての「カギの管理」が始まりました。それから１年半。「カギ管理の会」のメンバーであり、ひろばの隣にお住まいで、「ひろば」に目を向け、日々気に掛けていただいている、大畑さんにご意見を寄せていただきました。

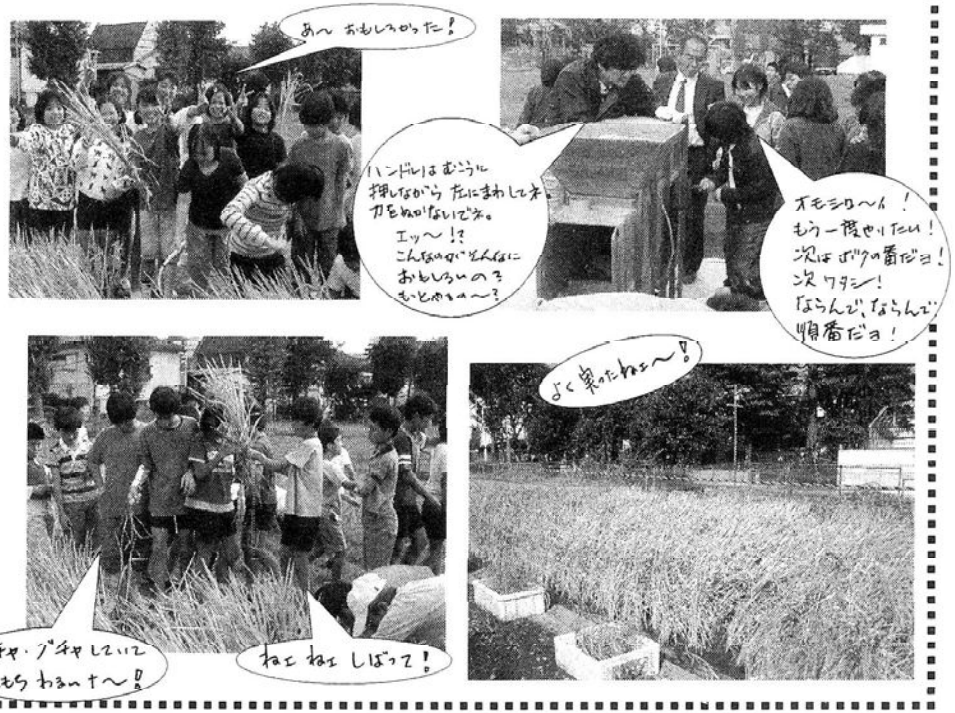
私がカギを預かろうと思ったのは、ひろばが開放されることになり、誰がそのカギを管理するかを話し合った際、青山氏が名乗り出てくれ、同時に町会で持つとおっしゃった方が居たので、これはマズイと思って、自分も参加する意思を示したのです。カギの管理はすなわちひろばの将来の運営に大きくかかわることを意味するので、町会という組織で持つのではなく、会の有志が持つべきだと思ったからです。

私は、カギを持ったことで随分ひろばの事が気になり、より身近に感じられました。犬を放している人たちがいれば行って話を聞いたり、柵を乗り越えてキャッチボールをしている中学生を見ると声をかけに行ったりなどなど。草が伸びすぎていれば折りに行き、大きなゴミが落ちていたら拾いに出たり……。だんだんとひろばの利用者が増えるにつけ、カギを持っている人で話し合いを持たなくてはと思うようになりました。

カギを持った動機は、皆、様々だったと思いますが、持ったことで皆さん、私と同じように感じていると思います。区も同じだと思っていたので、この夏頃からの動きは、私たちのひろばに対する思いを、シャットアウトされた様に感じ、カギを返そうかなと思ったりしました。

ひろばの会でも、最近、プレーパーク関係の話題が多くなると、カギのことや私たちの思いを、お話しをする機会がありませんでした。カギを持っても、何も知らされていない気がします。

将来の運営に大きく関わることだと思いますので、私たちを信頼して、何でも知らせて、考え合わせて欲しいのです。（大畑嘉子）

よく実ったものだ

池二小の皆さんがひろばで育ててきた稲がたわわに実り、10月22日ににぎやかに稲刈りが行われました。11月19日には、巣鴨五丁目朝日町会の青年部の皆さんが、昔ながらの脱穀機を持って来てくださり、無事脱穀も終わりました。